

令和5年度第1回花巻市立図書館協議会 会議録

1 開催日時

令和5年7月26日（水） 午前10時00分～午前11時50分

2 開催場所

花巻市立花巻図書館 会議室

3 出席者

(1)委員（12名）

林博文委員、小田島圭委員、堀合範子委員、佐藤貴哉委員、中里美香委員、畠山孝子委員、高野橋加子委員、熊谷恵委員、坂本知彌委員、佐藤三恵子委員、及川智子委員、佐藤可那実委員

(2)事務局（8名）

市川生涯学習部長、鈴木花巻図書館長、辻村石鳥谷図書館長、菅東和図書館長、高橋花巻図書館副館長、八重樫大迫図書館主事、松井花巻図書館司書

4 欠席者

0名

5 傍聴人

1名

6 議題等（議事録）

会議成立の報告（高橋花巻図書館副館長）

・委員12名全員出席。花巻市立図書館協議会規則第7条により、本会議が成立することを報告。

・委員の一部交代もあり、委員から一言ずつ自己紹介と事務局の紹介を行う。

1 開会（高橋花巻図書館副館長）

2 あいさつ（坂本会長）

改めまして皆さんおはようございます。暑い日が続いております。その中、お集まりいただきまして大変ありがとうございます。皆様のご協力で、今日も実りのある会議になるようにどうぞ協力よろしく願いいたします。それから新しい図書館については今日、議題には載っていませんが、市川部長さんが今の状況をお話くださるとのことなので、そこでしっかりと聞いたり、質問したり、よろしくどうぞお願いいたします。

3 議 題

（1）令和4年度花巻市立図書館の事業実施状況等について

- ・令和4年度花巻市立図書館の事業実施状況について、花巻図書館から順番に各館が説明（資料1-1）。

花巻：高橋副館長、大迫：八重樫主事、石鳥谷：辻村館長、東和：菅館長

（質 疑）

（○中里委員）

大迫図書館の大型紙芝居読み聞かせ講座について、質問というか聞かせていただきたいのですけれども、小学生は何年生対象なのか。あと、高校生、小学生がやっている講座で、読み聞かせしているときの様子や、やってみてどんな感想があったのか、というのをちょっと聞かせていただきたいです。

（○坂本会長）

6ページのところですね。高校生もいっぱい参加しているし、小学生もですね。先生方のご協力もあるみたいですね。

（○八重樫大迫図書館主事）

大迫図書館の図書ボランティアの育成（講座）についてですが、まず小学生については、3年生を対象に行っております。高校生については、図書委員会1、2、3年生全ての学年、それぞれ対応されております。実際の生徒児童の感想をというか反応については、実際、読み聞かせの講座というか指導については、恥ずかしがらずに読んだり、結構大きな声で読んでくれたりと、特に嫌がったりとか、そういうふうな反応はないです。実際、それを読んでこういうふう良かったですとか、直接詳しく聞く機会は少ないんですけれども、高校生については、実際に、例えば釜石高校との交流会で発表したりとか、大迫で行っている地域の

行事とか、神楽の日とかで発表したりとか、実際に地域の方に聞いてもらう機会もありますので、そこで自信を持って発表していただいているかなと思っております。

(○中里委員)

はい、わかりました。なかなか子供向けの読み聞かせ講座ってないと思うので、いい体験だと思うので、続けて開催してくれるといいなと思います。ありがとうございました。

(○坂本会長)

他にございませんでしょうか。すみません、ここから(議長から)質問です。東和図書館さん。「好評だったので、再び貸出し0回の本」、どれぐらいあるんでしょうか。ページ数でいうと12ページです。

1,274人も訪れていて、(貸出し)0回の本、どれだけあったんだろうな、と思って。

(○菅東和図書館長)

この1,274人の人数は、このテーマ展のというよりは、2月24日から3月31日までの期間の来館者数でカウントしていますので、実際にこの展示を何人見たかというのはちょっと確認はできてないんですが、ただ司書の方で、前回、貸出し0回の本(展)ということでやったところ、結構貸出しされたという実績があったようなので、もう1回、貸出されてない本(展)を開いて、テーマとして展示したところ、やっぱりそれがきっかけで、貸出しの実績が出てきたというところがあるので、結構良かったんじゃないかな、という感じを受けています。

(○坂本会長)

はい、ありがとうございます。

貸出しする、貸出し0数の本を探し出すのも大変だろうと思うんですけども、やっぱり本に光を当てて、ただ、しまっておくだけじゃなく、みんなに見られるのがいいなと思って、面白い企画だなと思いました。ありがとうございます。

(○小田島委員)

結果何冊くらいの本があったのですか。多分、他の図書館さんとか本校の図書室にもあるだろうなと思って。

(○菅東和図書館長)

はい、今時点で手元にちょっと数字がないので調べて参ります。

(この後、議題(2)の「令和5年度花巻市立図書館運営方針及び事業計画について」の各館からの説明時冒頭で回答。令和3年度の11月に1回目を実施した

際の対象冊数が約 100 冊ほどで、この内約半数が貸出された。令和 4 年度の対象冊数も約 100 冊ほどであったが、これは前回実施後に新規購入された本の分も含めての数値。)

(○坂本会長)

なんか面白い企画ですよ。

(○堀合委員)

2 ページ目の「読書おもいで帳」ですが、ここの図書館にもあって。通帳のような形をして立派なおもいで帳があるわけですが、これは昨年度から始まったのだったのでしょうか。

(○坂本会長)

もうちょっと前、4、5 年前 (ですかね)。

(○鈴木花巻図書館長)

平成 29 年の 7 月 24 日にスタートしたもので、花巻工業クラブさんからの寄贈で、記帳の機械を導入させていただきました。29 年度 (途中) から始まったのですが、平成 30 年度は 1 年目だったので 1,236 冊とちょっと多いですが、これまで令和 4 年度までで、4300 冊ぐらいのおもいで帳を発行しております。現在対象は 0 歳から中学生までの希望者を対象に発行しております。

(○堀合委員)

大人についての発行、確か以前に、大人にも (発行) という、意見があったように思いますけれどその辺は、どのようにこれからお考えでしょうか。

(○高橋花巻図書館副館長)

大人にも発行してほしいという意見はアンケートにもそういう声は出ていますし、図書館協議会でもそういった意見があります。その時も説明してたかと思うのですが、子ども読書活動推進計画の中の事業で始めたことだったので、どうしてもそういったことがあるのですが、ただ、何れやはり (大人への発行について) こちらの方でも検討しなくてはいけないということでは進めております。

(○堀合委員)

と申しますのは、つい 10 日ほど前に一関市立の東山図書館にちょっと寄る機会がありまして、そこを何気なく見ていたら、やはり同じような読書通帳というふうな、花巻で言えば、おもいで帳だと思うんですが、(読書通帳を提示) これが子ども用です。かなり薄いです。50 冊、つまり書けるのは 50 冊までということです。こっちが大人用。中身が子ども (用) ですと、「読み始め月日」から「終わり月日」というのを、大人用では「読書開始月日」から「終了月日」とかいうようになっておりますが、そんなにコストもかかっていないのではないかと

な、という気がして、手軽に始めるのには、これも予算上もかなりいいのではないかなと思いました。

（会場内で読書通帳を回覧）

受付の方に聞いたら、この50冊読み終わったら、手作りの葉をあげます、ということでした。

花巻の読書おもいで帳の表紙にもフラワーロールちゃんの絵があったように思いますけれど、

釜石もそういった感じの、本当にあんまりお金がかかっていないというような感じの、10何種類かの色で分けておりまして、ラミネートしたような感じのそんなに手作りで予算がかかっていないというのですが、励みになるのではないかなと。大人でもですね、子どもでもそういった意味では、参考になるのであればという気がいたします。

花巻でのおもいで帳は、今ちょっと上の方（貸出カウンター）で資料をいただいてきましたら、2冊目達成は記念のシールをあげます、3冊目達成はおもいで帳のカバーを渡しますと、子どもたちにとっては励みとなるような、意欲づけといたしますか、そういったのを考えているようですけども、大人用でももっと手軽にそういったようなことができるということで参考までに申し上げました。ただ先ほどいただいた、このおもいで帳についての、「作ってみませんか」というチラシを見ておりましたら、立派なおもいで帳のせいか、紛失した場合は半年間再交付できません、というふうにありまして、中学生まで大事に使ってね、という意味もあるかと思えますけれども、半年間、発行できない子どもはどんな気持ちになるのかな、ちょっと罰としては重いんじゃないかな、という感じがいたしました。せめてですね何週間とかですね、「次にまた大事にしてね」と言えば子どもたちを信じて、そういうふうには再発行ということも考えていただければなどそういうふうには思いました。

すみません、もう一つです。

大迫図書館さんが学童に出向いて、出前で読み聞かせをしたり、出前で映画会をしたりということがあって、私も学童に子供を昔預けたものですが、忙しい親だと、子どもはなかなか図書館に行けないっていうところもありますので、ボランティアさんがやってくれるかどうかにも関わるかと思えますけれども大変良い試みだなと思って、感心いたしました。これが拡充することを願っております。以上です。

（○坂本会長）

今、拝見しましたが、大人用のおもいで帳、いいですねあまり厚くなくて。

厚いといつ終りになるのかなと何となく気が重くなるけれど、子供も 50 冊目標だったなら、すぐに 2 冊目いきそうな感じで、そして薄いとコストもかからないというのがあれば、それも一つの方向だなと思いました。立派なのを渡して、「大事にして」というのもいいけれど、これもいいですね。

(この後おもいで帳に関し、委員どうしで自由型式での意見交換が行われた)

(○鈴木花巻図書館長)

ご意見ありがとうございます。おもいで帳については、「検討します」というような状況のままだというふうに私も捉えておりますので、お返事をしっかりしていきたいと思います。ありがとうございます。

(○坂本会長)

よろしく願いいたします。それでは他にはございませんでしょうか？

佐藤（可那実委員）さん。

(○佐藤可委員)

はい。さっきの（おもいで帳）見せてもらって思ったんですけども、やっぱり私、介護福祉士なので、何か高齢者と本を繋げたいな、という気持ちがあるんですけど、高齢者も結構本が好きな人は多いので、そういうのに書くことで、「こういうの読んだんだよ」と、自分にとっての思い出にもなるし、人に話すときの、「こういうの読んだんだ」というのを思い出すきっかけにもなるので、いいなっているのを思いました。

あと、事業内容見てて少し思ったのが、図書館というのは、生涯、どんな年齢の人でも使える場所、生涯学習の場だなというのは思っているんですけど、子供向けの事業が多いなど。その通りだとは思いますが、でもちょっとでも高齢者向けのあるとうれしいな、ということは思いました。

(○坂本会長)

はい、ありがとうございます。高齢者向けに読み聞かせをお願いするっていうこともできるかと思います。私、前に言われて行ったことがあります。そうするとやっぱり子供と違うところで反応してくださって。読んでて子供だったら何かすうっと通り過ぎてしまうところが、やっぱり経験を積んだからこそ感じられるその思いというのを、読んでる方も感じてすごく良かったなと思います。

だから介護なさってる方々はお忙しいから、そういう時間がなかったらどうぞ、図書館の方に依頼してください。読み聞かせの。

(○佐藤三委員)

高齢者向けの紙芝居も結構ありますよね。

(○佐藤可委員)

多分その普通の紙芝居としても子供たちにとって知らない世界（時代背景）なんですけど、ご高齢者にとっては、「こういう時代に生きてました」みたいなもの、楽しいと思います。

（○坂本会長）

はい、図書館の活用をどうぞなさっていただきたいと思います。ありがとうございます。他にご意見ございませんでしょうか。

それではその次の決算予算の概要についてのご説明をお願いいたします。

（○高橋花巻図書館副館長）

資料の説明に入ります前に、先ほど佐藤（可）委員さんからのお話で、高齢者向けに限るものではありませんが、大人向けの読み聞かせということに関しましては、「ふれあい出前講座」（資料1-2、6ページ）の方で受けておまして、そちらの方で申し込みいただければ対応できるようにしておりますので、ご利用いただければと思います。

・令和4年度決算見込み、令和5年度当初予算について、高橋花巻図書館副館長から説明（資料1-2）。

（質 疑）

（○佐藤貴委員）

決算に対して予算は4000万円アップしてるってことで、これ結構すごいことだと思うんですけど。内訳を見ていくと、東和図書館さんの工事請負費ということで2000万円計上されていて、ここについてのご説明でもなかったかと思うので、改めてお願いしてもよろしいでしょうか。

（○高橋花巻図書館副館長）

大変失礼しました。説明が漏れておりました。

花巻市の図書館の一般会計として、一般行政経費とか、読書活動推進事業費、視聴覚教育推進事業費のほか、図書館改修事業費がありまして、市の公共施設のマネジメント計画関係とからめて計画的に修繕等おこなっておりますが、修繕がない年度もございまして、令和4年度は（修繕が）なかったんですけども、5年度に関しましては、（東和図書館）管理棟のトイレの改修が入りまして、洋式化とか自動水栓化とか。あと配管関係も古くなってきて、汚れといいますか、通りが悪くなったとか、そういったものありますので、ほぼ全面に近いような改修が入ります。それに伴いまして、工事請負費とその工事監理とか設計業務の委託業務の部分で増額になっているところがございます。

(○坂本会長)

他にございませつか。

それでは、2番の令和5年度花巻市立図書館事業計画についてお願いします。

(2) 令和5年度花巻市立図書館運営方針及び事業計画について

- ・令和5年度花巻市立図書館運営方針(案)について、基本方針、重点目標を鈴木花巻図書館長が説明後、各館の重点事項、事業概要の説明を花巻図書館から順番に各館が説明。

花巻：高橋副館長、大迫：八重樫主事、石鳥谷：辻村館長、東和：菅館長

(質 疑)

(○坂本会長)

それでは今説明していただきました事業の計画、それからスキルアップの講座等ご質問がありましたら。はい、佐藤委員さん。

(○佐藤三委員)

あの資料に掲載されていないんですけど、石鳥谷図書館では、今カウンターと児童室に貼り紙があって、大きい字で、図書館の人が本を読みます、読んでほしい本があったら図書館の人に持ってきてね、いつでも読めますよって。小さい字で石鳥谷図書館では読書支援の一環として、図書館スタッフが読み聞かせや朗読をするサービスを随時行っています。本に限らず、文字が多い本、物語などでも大丈夫です。また字が小さすぎて読みにくいなど、読書にお困りの方の支援をいたします。お気軽にお声掛けください、という素晴らしい取組をしてるんですが、この状況っていうんですか、どんな感じかなっていうのをお話してください。

(○辻村石鳥谷館長)

図書館職員による読み聞かせについてですけれども、今年度から貼り紙を貼って、行っているところですが、実績としては、佐藤委員さんの娘さんがボランティアでいらっしゃったときに、1日だけの実績で、5、6人程度でした。

(○佐藤三委員)

もっとやってると思うよ。職員さんとかに聞いたら結構読んでるって。

(○辻村石鳥谷館長)

去年だったか、ちょっと忘れたんですけど、(職員が)児童室の方で本の整理をしてたら、小学生の子供たちが「読んで、読んで」ということで、対応はしているんですけどもちょっと人数までは把握しておりません。あと、主なところは佐藤委員さんがいらっしゃったときに、やっぱり待ってるだけだとなかなかなくて、こちらの方から声掛けをして、では、ということで紙芝居から始

まって物語とかお話をしているようです。その後は残念ながら、ちょっとまだ実績がはっきり見えないというところになっておりますので、方法を考えなければならぬのかなと思っております。

(○佐藤三委員)

娘がそのときやったんですけど、その娘が言うには、今までお話し会では自分たちが選んだものを読むと、だけど、その日はあの児童室の小上がりのところで、読んでほしいっていうものを持ってきてもらって読むと、そうすると全然読み手として気分が違う。望まれているものを読んでもらうんだっていうので、すごく気楽だったって言って。望まれる、「この本読んで」って言われたものを読むっていうのと、自分たちが選んだ本を「さあ読みますよ」って読むのとは、やっぱり子供と読み手の関係っていうのが違うから、やっぱり読んでほしいっていうものを子供に望まれて読むっていう活動も必要かなって思います。

(○坂本会長)

読んでもらってる子供もたのしいでしょうね。自分が読んでほしいっていうのをその場で読んでもらえたらすごく嬉しいと思います。すごい、いい活動ですよ。他の館でも広がればいいなと。望みたいです。

他にはございませんか。はい、どうぞ。

(○中里委員)

最初の資料の、資料 2-1 の方ですけれども、資料 2-1 の各館重点事項というところで、やっぱりどの館もレファレンスサービスの提供に努めますと書かれているんですけれども、私もよく花巻図書館を利用して、目当ての本がないときは声かけて、手伝ってくださいって言うと、親切に対応してくださるんです。ただ、私から声かければやってくださるけれども、そういうサービスを知らない方も多分いらっしゃると思うし、何となく今日図書館に来てみたっていう、何かいい本ないかなって来てみた、という方もいると思うので、そのサービスとして、声をかけられたら答えますっていうのだと、ちょっとサービスとしては弱いんじゃないかな、ちょっと控え目なサービスじゃないかなと思うので、図書館の職員さんの方からも声かけがあるといいなと思っております。以上です。

(○鈴木花巻図書館長)

はい、ご意見ありがとうございます。利用者の方の心理といいますか、私もまだ3ヶ月なので皆さんほど詳しくはないのですが、静かに読みたい方だったり、でも、話しかけることによって、読むという機会をつかんでいただける方がいたりとか、いろんな方がいらっしゃると思います。そういった状況に合わせて、できるだけ合わせて、寄り添いながら、おっしゃっていただいたような「何かお探

しですか」とか「どんな本をお探しですか」とかいう呼びかけや話しかけ、声かけをできるような、もっとしやすくなるような図書館にしていきたいとは思っております。ありがとうございます。

(○中里委員)

はい、多分お忙しい時、混んでいる時はちょっと難しいかもしれませんが、もうちょっと余裕のあるときは職員さんもカウンターの中にずっといないで、ちょっと一歩出て、ぐるっと回ったりしてもらえるとありがたいなと思います。

(○坂本会長)

はい、ありがとうございます。子供なんか、レファレンスという言葉もわからないので、表示で「わからないことは聞いてね」とか何かあると聞きやすいかもしれません。他にございませんでしょうか。

(○中里委員)

資料 2-2 のスキルアップ講座のところで、私も興味があって申し込んで参加させていただいたりするんですけども、第 2 回、3 回、4 回と、定員が 10 名、15 名と、結構図書ボランティアやってる方、小学校だけでも結構いらっしゃるんで、10 名だと本当にその申し込みの当日に頑張って予約、私もその 1 人なんですけれども頑張って予約しないと、この講座を受けれないっていうのだと、ちょっともったいないなと思うので、もし可能であれば人数を増やすか、回数を増やすかだと、多分多くの方がいろいろ学べていいんじゃないかなと思ってます。

(○鈴木花巻図書館長)

ありがとうございます。おっしゃっていただいた通りで、2 回目の参加者として中里さんに参加していただいた講座の際も、本当にあっという間にお電話をたくさんいただいて（定員が）埋まってしまったという状況でしたので、もっともっといろんな参加できる機会を作っていきたいと思っております。ただ、講師の先生とのやり取りの中での調整なので、その回の人数を増やすことは難しくても、回数を増やすとか、あとはもし人数がある程度まとまるようであれば、先ほども出前講座の話をさせていただきましたけども、そういう形をご利用いただくことも、ぜひ、おっしゃっていただければ説明させていただきます。

(○中里委員)

はい、わかりました。ありがとうございます。

(○坂本会長)

あとありませんか。なかったら、ちょっと教えてほしいです。資料 1-1 に戻るんですけども、(講師) 嶋田佳子さん「子どもアート療法士」、11 ページにあ

るんです。同じく東和の、資料2-2の8ページの方には（講師：嶋田佳子）「つの子のアトリエ」というふうと同じ名前の方があるんですけども、子どもアート療法士っていうのはどんなことをなさる人なんですか。おしえてほしいなと思いました。「えほんとあそぼ～ナニモノ仮面」っていうのが（資料）2-2です。8ページ「子ども読書推進企画事業」の中の。

（○菅東和図書館長）

はい東和図書館の事業かと思いますので（私の方から回答します）。この事業については、令和4年度で1回開催して、令和5年度も引き続きというか、2年続けて5年度も同じ方々に講師をお願いしてやってもらったというところがあります。それでこの講師の嶋田さんという方、子ども（アート）療法士ということですが、私も今回5月に行われた事業にちょっと参加、というか一緒に見させていただいたんですけども、子供たちに絵とか、いろんな工作とか、そういうのを一緒にやって、作業とかそういうを通して、子供の精神状態や成長の様子をキャッチして、その必要に応じて心のケアを行っていく、という療法らしいです。

（○坂本会長）

どちらにお住まいの方ですか。

（○菅東和図書館長）

嶋田さんは北上市で、結構さくらホールの方でいろいろな事業をしている、活動も結構いっぱいやっている方で、確か北上市在住だったと思います。

（○坂本会長）

結構2回やったってことは、楽しかったんだろうなって。

（○菅東和図書館長）

親子で参加してもらって一緒に、「じゃあ、こういう材料を使って」、この前は工作というかアートというか、「自由にこれを使って」、「自由にこういうテーマで」、一応テーマはあるんですけども「自由に作っていいですよ」、（それで）親子で作って、それに先生がいろいろ声掛けをする、「すごいねこれ」、「天才じゃない?」とか、いろんな声をかけて様子を見ていく、というような雰囲気の仕事でございました。

（○坂本会長）

ありがとうございます。はい、他にはありませんか。それではその他の方に移ってよろしいでしょうか。それでは、続きまして3番目のその他に移りたいと思います。市川部長さんお願いいたします。

（佐藤三委員より、先に発言させていただきたいと声があり）はい、先に佐藤委員さん。

(○佐藤三委員)

今日は「ミイラになったブタ」っていう本を皆さんにご紹介したいと思います。この本は「今、この本を子どもの手に」でも紹介されてますし、この「知識の海へ」っていう、児童図書館基本蔵書目録にも紹介されていて、これは全館4館ありますしこれは東和と花巻にある本なんですけども、この「ミイラになったブタ」は、石鳥谷図書館の閉架書庫、花巻図書館の書庫にそれぞれ1冊ずつ合計2冊あります。これはアメリカの生態学者が自然界の謎を解き明かす科学読み物で、14話掲載されていて、題になっている話はブタの死体が腐る場合と、ミイラになる場合があるのはなぜか実験して突き止めるとか、トナカイが突然大量死して、外敵もないし外傷もないのになぜかとか、鮮やかな蝶は目立つのに、なぜ他の生き物に食べられないのかとか、そういう面白い話が14話載っているんですけど、これは全ての生き物は単独で存在しているのではなく、複雑に影響を及ぼし合っていることが自然に理解できる展開で、何かすごく面白いなと思って読んだんです。これはいい本なので、閉架や書庫に置かないで、ぜひ子供のそばに置いてほしいと思ったんですけども、調べてみると、これ1998年発行だけれども、2022年度「くもんのすいせん図書」になっているし、中学の教科書でも何かおすすすめ本として載っているらしいんです。さらに調べてみたら、学力の高いことで有名な福井県の教育委員会では、この「本のあるまいにち」子どもの成長段階に応じた推奨図書、という岩手県で言えば「いわ100きつず」みたいな本を発行していて、その小学生にすすめる72冊の中に「ミイラになったブタ」も高学年向けに紹介されていました。福井県では小学生全員にすすめられているこの本が岩手県の花巻市では、閉架に入ってしまったっていうことに本当に落胆しました。今教育格差が話題になっていて、親ガチャとか地域ガチャって言葉もありますし、生まれた場所で出会う本に格差が生じてしまう実例のように感じます。ちなみに一関図書館には「ミイラになったブタ」は11冊ありました。「今、この本を子どもの手に」っていう本も、このリストもあるわけですから、よい本を子供のそばに置くっていうことを、もっと図書館では考えなくちゃいけないと思うし、学校図書館の図書購入の際にも、「こういう本がいいですよ、(学校)図書館にぜひ買ってください」っていう情報発信を図書館がやっぱりリーダーシップをとってやらなきゃ。こういうあまりにも差ありません(か?)。福井県はみんな紹介されてるのに、花巻市の子供たちはこの本を知らないっていうのはやっぱり大きい課題だと思いますし、今、新花巻図書館の話これから出ますけれども、出るとは思いますけれども、10年前から新しい図書館立つ、新しい図書館立つと言って、児童室は狭いし、どんどん新しい本買うから、こういう発

行年が古い本はどうしても書庫に入ってしまう。それは、この新花巻図書館の構想がこの10年実現しないってということによって、児童室が狭いということによって、子供に会う本がね、非常に著しく少なくなっているんだってという現実をもう少し直視してですね。うちの子供が小学生だったのが大学生になってしまいました、この10年間で。やっぱりもっと速度を上げて新しい図書館を建てましょうよっていうお話でした。よろしくお願いします。

(○坂本会長)

はい、よろしくお願いいたします。

(市川生涯学習部長)

その他の部分よろしいですか。では新花巻図書館についてです。新花巻図書館の整備について、これまでも図書館協議会の皆様には意見をお聞きしてきたところではありますが、今回新しい委員の方もおいでですので、少し古いことから最近の状況についてご説明をしたいと思っております。平成24年の段階で、新しい図書館の計画というものの、構想を市民団体が作ったものがございました。それは、厚生病院の跡地に立てる計画であります。ご存知の通りそこは今、総合花巻病院が移転して立っているというところでございます。その計画は新しいまちづくりを考える中で花巻病院の移転となり、平成29年の8月に改めて新花巻図書館整備基本構想という新しい図書館の基本構想を作ったところです。これは市民参画の手法、図書館協議会の皆様にもご意見をお聞きいたしましたし、いろいろな市民団体等の御意見も聞いた上で策定した基本構想であります。これが根幹になっておりまして、これに基づいて、具体的な計画を作っていくということになったものでございます。令和2年度に、ワークショップを開催いたしました。これは公募の方、市民から公募も募り、また関係団体等からも参加いただいたもので、公募に応募された市民は全員入ったものでありまして、その経過については、コロナ禍に入っておりまして、説明会ができなかったんですが、オンラインで市民の皆様にご説明をしたというふうなものでございます。令和3年4月により具体的な計画を作るということで、専門家の方、またワークショップに参加した図書館に関心を示されている団体の方、また社会教育委員の方、図書館協議会からもメンバーに入っていた形、新花巻図書館整備基本計画試案の検討会議というのを設置したものでございます。これが令和3年4月からやっております。具体的な計画を作るためのサービス、機能など主にソフト面について議論をしてきて、大体集約されてきたものでございます。令和4年度、昨年度になって、これまで検討してきたサービスや機能に見合う図書館の建設場所という観点から建設候補地についても意見交換をしてきたというものでございます。この会

議においては、駅前のスポーツ用品店の場所がいいという意見、またどちらかと言えばその場所がいいという意見が多い状況でありました。候補地として大体2ヶ所に絞られてきているというふうに捉えておりまして、その駅前のスポーツ用品店の場所、もう一つはまなび学園の隣の旧総合花巻病院があった場所です。その会議で検討してきた内容と場所について、令和4年度に、駅前のスポーツ用品店の場所はJR東日本の所有地です。これまでの経過の中で、図書館建設場所は市有地にするべきだと市議会からの提言などもありまして、その場所となれば買う必要になってきておりまして、それについて具体的にJRに交渉するというのも市民説明をしてきたところでもあります。JR東日本は、その土地については、基本的には今収入を得ている場所なので売りたくはないという方向でありました。ただ花巻市が、市民を含めた市の意向として図書館を建設するというようなことが明確になった段階で具体的に協議に応じたいというような方向でありました。それでこれまで検討会議等でも意見交換をしてきたこと、また市民にも説明してきたことを踏まえてJR東日本と協議をしたいということも市民説明したものであります。令和4年の10月から12月までの間、市民説明会を15回、オンラインでも2回、あと市内の高校全部6校、あと看護学校にも説明をしてご意見を聞いたり、あと関係団体等にもお話を聞いてきたところでもあります。説明会においては、これまでご説明はしてるんですが、若い世代の方や高校生を中心に、駅前を希望する意見が多くあるところでもあります。また一方で、旧総合花巻病院跡地を希望するという方も多いところでもあります。まだ集約はできていないと我々は考えております。説明会の中では、駅前のスポーツ用品店に整備する場合の事業費や、総合花巻病院跡地に整備した場合の事業費、そういうような比較資料がない中で判断できないというような意見も多数あったところでありまして、このような状況をJR東日本盛岡支社にご説明をいたしましてその上で、今後どちらに建設する場合の事業費なども精査してイメージなどもお示しして、市民に説明したいということも、JR東日本に説明した上で、その前提として、スポーツ用品店の敷地を譲っていただく場合の条件を示してもらえないか、ということをお話したところでもあります。それについてはJR東日本盛岡支社からは我々が要望していたその土地の譲渡について、協議を進めることについて社内整理が整ったという連絡をいただいたところです。これに基づいて、具体的に金額いくらで売るとかはまだ協議してないわけですが、それらの条件が受け入れ可能なものと判断できた場合は、先ほど申した通り両方の場所で建設した場合の事業費、どのようなイメージで配置できるのか、というのも含めて、再度市民の皆さんにお示ししていきたいと考えているところです。場所についてしっかりその基

本計画の試案を定めて、図書館協議会でも審議をいただいて具体化を進めたいというところであります。佐藤委員おっしゃる通り、できるだけ早くやりたいと思っております、私の子供も大きくなってしまいました。高校生の意見は駅前っというのが多いんですけども、高校生はいなくなってしまうから、あんまり気にしなくてもいいんじゃないの？っていう意見の方もありますが、子ども達は次々と高校に上がってくるわけですし、高校生以外にも子どもの図書に接する期間って今なわけですよ。それを逸してしまうのは残念であり、できるだけ早くしたいっていうのは私もずっと前から思っていることです。現段階での状況というか報告になってしまいますが、今のところの状況報告です。ありがとうございます。

(○坂本会長)

ありがとうございます。なんかまどろっこしいなと思いますけれども、一つ一つ手順を踏んでいかないと、やっぱり良くないんだなっていうこともあるので。JRが交渉に応じてくれるっていうことは一歩前進というふうに捉えていいんでしょうね。はい。みんなで希望を持って待ちたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは3番までのその他、これで終わってよろしいですか。はい。それでは事務局の方にお返しいたします。

4 その他

(○佐藤可委員)

ちょっと聞いてみたいことがあって、コロナはもう落ち着いたとは思いますが、まだ何か対策を続けてたりするんですか。なんか、本、前は消毒みたいなものとかしてるとおっしゃってたんですけど。

(○鈴木花巻図書館長)

はい、消毒というのは、消毒機ですね。花巻は2台、あと各館に1台ずつ入っておりますのが、利用する方が希望があればご利用くださいという形です。コロナに関しては、先ほども方針のところちょっと触れたんですけども、ガイドラインみたいなものは今もうなくなりました。なくなりましたが、お入りいただいたときにあったと思いますけども、体温測定センサーとか消毒液ですね、そういったものは引き続き置いてあります。マスクも強要ではないですし、換気もその状況によって行っていますので、全く何もなくなったわけではないですけども、特に利用者の方に何かを求めるようなものは基本的にはないです。

(○佐藤可委員)

わかりました。ありがとうございます。

5 閉会（高橋花巻図書館副館長）